

ちばし手づくり環境博覧会実行委員会の一員となって

ちば市ネイチャーゲームの会 御須裕子

1. はじめに

「ちばし手づくり環境博覧会」に参加することは、地域(千葉市)のなかで、ちば市ネイチャーゲームの会も環境団体の一員であることをアピールするのによい機会であり、他団体との交流を図ることで活動範囲も広がると考え、出展団体として参加するとともに、実行委員として企画運営に携わることになった。その体験から感じたことや、ネイチャーゲームコーディネーターの役割として気づいたことなどを整理してみた。

2. ちばし手づくり環境博覧会実行委員会の概要

この実行委員会の目的は、「持続可能な社会」を目指し、多くの市民が環境に関心を持ち、環境保全活動に参加する意欲を育むため、市民・大学・民間団体・事業者・行政等が協働して「ちばし手づくり環境博覧会」を開催するとともに、交流を促進し、パートナーシップの構築を図ることにある。

平成17年度に、千葉市で主催する環境フェスティバルの一環として第1回が開催され、当初より開催に当たっては、少なからず民間団体が協働する力を必要とされていた。ちば市ネイチャーゲームの会は、平成19年度に出展団体となり、同時に実行委員会の一員となった。

実行委員は、千葉市(行政)のほか、ちば市ネイチャーゲームの会、地球温暖化問題、ゴミ問題、3R推進等を考える団体、環境指導者養成講座卒業生のグループ、環境団体と個人をつなぐNPO、県下で環境展の開催を企画運営する団体等の民間団体(市民)や、生活協同組合、エネルギーを供給販売する企業(事業者)等からの代表者14名で構成されている。

3. ちばし手づくり環境博覧会実行委員会の活動状況

平成21年は1月下旬から7月にかけて、博覧会開催前に7回、後に2回の会議を開催した。

当初の千葉市主導の形態を、徐々に実行委員会主導型に変換するよう活動幅を広げ、20年度からは、千葉市主催の環境フェスティバルとの同時開催を辞め、会場の確保から自分たちで行っている。また、20年度の振り返り事項から、21年度は開催期間を2日間としたり、一般来場者の声を多く聞き取るためにスタンプラリーとアンケートをセットし、アンケートと景品を交換するなど新たな工夫を加えた。また景品は、出展者からの供出を依頼し、出展者も「手づくり」の一員であることを促す姿勢をもって臨んだ。

実行委員会の役割は、実行委員長、副委員長、事務局長、会計、出展管理、広報、監査などからなり、それぞれが得意の業務を担当している。

そして今年度は、その知名度を上げるため博覧会終了後に、他の環境展3つに出展することを予定している。

4. 成果と課題

参加者アンケートには、「今日からこまめな環境保全対策をしようと思った」等、実行につながる前向きな感想がたくさん寄せられると共に、環境博覧会の継続を望む声も聞かれ、市民と環境団体への小さなつなぎ役、地域づくりの一端を担うことができたのではないかと思う。

出展者アンケートは、環境博覧会の開催により他団体との交流があった、と答える団体が多く、大きな企業から地域の中の数名のグループや大学生を「環境」というキーワードでつなげるきっかけを作ることができたと実感した。一方で、もっと市民が何を希望しているか実態を知るべきではないか、との厳しい意見もあり、実行委員会としてさらなる努力を目指すとともに、実行委員会に任せきりという姿勢も見え隠れして、「協働」をもっとアピールしていく必要

があると察した。

実行委員会自体はまだ軌道に乗っているとは言えず、毎年手探り、まさに「手づくり」の状態。だからこそ、毎回の会議には新しいアイデアが提案され、それに伴い活発な論議が繰り返されている。こうした会議を重ねていくうちに、私個人としては、いろいろな団体の立場や実情、考え方を理解できるようになった。そして、たくさんの環境団体がそれぞれの主張を繰り返すだけでなく手を携えていけば、地域に向けてもっと大きな何かが生まれるのではないかという思いを抱いた。

役割から見ると、毎年40団体前後からの出展申し込みのとりまとめを担当しているが、日頃ちば市ネイチャーゲームの会や、千葉県ネイチャーゲーム協会イベント参加のとりまとめをしている経験が、ここで多めに役立っている。そして会議の中で、「一般来場者や出展団体の気持ちや考慮した提案」などは、常に参加者の心の状態を考えるネイチャーゲームの得意とするところで、ほかの委員とは違った角度からの意見を提出することができた。

一方、地域の会の一員としてのコーディネーターの役割を考えてみると、まずほかの実行委員から自分たちの活動とあわせて実施するネイチャーゲームの依頼を受けるようになったこと、そして今年は、出展団体のひとつから「全国めだかサミット in よつかいどう」での出展を打診されるなど、会の活動範囲を広げ、会員と他の活動団体をつなぐ手ごたえを感じている。

もちろん、多くの情報を得ることもできる。出展の手伝いに来た会員が他の環境団体を知ることができ、それぞれが興味のある分野のブースで熱心に活動の紹介に耳を傾けていた。こうして会員の見聞を広げるよい機会を提供することも成果の一つだと思う。

また私個人のつながりから、大学生の環境団体に出席を促し、環境博覧会の協働の幅を広げたことに、実行委員会から評価をいただいている。

当初、環境博覧会に出展するには、実行委員にならなければならないと勘違いしたことから委員となり、忙しさを増やしてしまい幾分後悔した。しかし3年を経てふりかえると、それ以上に、いろいろな活動団体や企業から派遣された代表者とひとつのイベントを作り上げていく楽しさや苦勞を知るなど、今では参加したことにより得られる実りの多さのほうが大きいと実感している。ただ、今後も他の環境展に出展するなど、尚一層多忙になりそうなのが唯一の難点…。

課題は、この多忙との折り合いのつけ方にあるような気がする。昨今の倣いで、会議で決定できなかった部分は、メールによる協議方法をとっているが、忙しいと真剣には読まずに返信することもしばしばおきてしまう。反省して、今後の課題としたい。

また、来年度からは新規に実行委員に加わるメンバーもあるようで、活動の異なる団体からの新しい風をどんどん吸収して、ちば市ネイチャーゲームの運営にも活かしていきたい。

5. コーディネーターのみなさんへ

各地で同じような環境展が開催されており、その運営に当たっている方もたくさんいらっしゃると思います。そして、その形式は種々に異なり各地域の実情にあったものでしょう。こうして他地域の状況を知ることで、少しは役立つことがあればよいと考えると同時に、よりよいシステムで運営している環境展や、企画・運営を担当しているコーディネーター仲間から、私もいろいろ教わりたいと思います。このような情報交換も地域とネイチャーゲームをつなぐコーディネーターのひとつの要件だと感じます。機会がありましたら論じましょう。

6. 活動写真



子ども達はすぐノッてきます！（21年度）



自分たちでやってみよう！（21年度）



会場の様子(20年度)



おそろいのポロシャツで(20年度)